

線形代数テスト 1b

樋口さぶろお¹ 配布: 2019-07-30 火 更新: Time-stamp: "2019-08-03 Sat 18:06 JST hig"

テスト 1b 参加案内

1. 指定された用紙に解答しよう.
2. 過程も答えよう. 最終的な答えが正しいことがわかるような過程を記そう.
3. 問題文に現れない記号を使うときは, 定義を記そう.

1

結果のみ, 過程不要

次の行列の積が定義されるなら計算しよう. 定義されないなら「定義されない」と答えよう.

1.

$$\begin{bmatrix} 1 & 0 & 3 \\ 5 & 1 & -1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 0 \\ 2 \\ 1 \end{bmatrix}$$

2.

$$\begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} -1 & 1 \\ 3 & 0 \\ 2 & 3 \end{bmatrix}$$

3.

$$\begin{bmatrix} 1 & 2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} -1 & 0 & 7 \\ 3 & 3 & 0 \end{bmatrix}$$

4.

$$\begin{bmatrix} -1 \\ 3 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 & 2 \end{bmatrix}$$

¹Copyright © 2019 Saburo HIGUCHI. All rights reserved.

2

結果のみ, 過程不要

行列 $A = \begin{bmatrix} 2 & 3 \\ 7 & 3 \end{bmatrix}$ を考える.

1. 行列式 $\det A$ を求めよう.
2. 逆行列 A^{-1} を求めよう.
3. A^{-2} を求めよう.
4. 転置行列 tA を求めよう.

3

結果のみ, 過程不要

実対称行列 $A = \begin{bmatrix} 0 & 6 \\ 6 & 5 \end{bmatrix}$ について次が成立する.

$$A \begin{bmatrix} 2 \\ 3 \end{bmatrix} = 9 \begin{bmatrix} 2 \\ 3 \end{bmatrix},$$

$$A \begin{bmatrix} 6 \\ -4 \end{bmatrix} = -4 \begin{bmatrix} 6 \\ -4 \end{bmatrix}.$$

関係 ${}^tPAP = \Lambda$ が成立するような対角行列 Λ , 直交行列 P を 1 組答えよう.

4

過程も記述すること

平面の線形変換を考える.

1. 原点を中心とする, 反時計回りの角 θ の回転の線形変換で, 点 $\begin{bmatrix} a \\ b \end{bmatrix}$ の写る点を答えよう.
2. 行列 $A = \begin{bmatrix} 2 & 1 \\ -4 & 3 \end{bmatrix}$ の表す線形変換で, ある点 $\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$ が点 $\begin{bmatrix} -20 \\ 10 \end{bmatrix}$ に写る. 点 $\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$ を求めよう.
3. 平面の点を, まず行列 $A = \begin{bmatrix} 2 & 1 \\ -4 & 3 \end{bmatrix}$ の表す線形変換で写し, 写った先の点をさらに行列 $B = \begin{bmatrix} 0 & -2 \\ 3 & 0 \end{bmatrix}$ の表す線形変換で写す, という合成された線形変換 f を考える, f を表す行列を求めよう.
4. 2次正方行列 P, Q, R に対して, $PQR = E$ が成立する. R を, P^{-1}, Q^{-1} で簡潔に書こう.

5

過程も記述すること

行列 $A = \begin{bmatrix} 2 & 5 \\ 3 & 4 \end{bmatrix}$ を考える.

1. A の固有値固有ベクトルを求めよう.
2. $P^{-1}AP = \Lambda$ となる対角行列 Λ , 正則行列 P を 1 組答えよう.

線形代数テスト 1b 略解

樋口さぶろお² 配布: 2019-07-30 火更新: Time-stamp: "2019-08-03 Sat 18:06 JST hig"

配点 計 100 点.

1

1. $\begin{bmatrix} 3 \\ 1 \end{bmatrix}$
2. 3×1 型の列の個数と, 3×2 型の行の個数が一致しないので定義されない.
3. $\begin{bmatrix} 5 & 6 & 7 \end{bmatrix}$.
4. $\begin{bmatrix} -1 & -2 \\ 3 & 6 \end{bmatrix}$.

2

1. $\det A = -11$.
2. $A^{-1} = -\frac{1}{11} \begin{bmatrix} 5 & -3 \\ -7 & 2 \end{bmatrix}$.
3. 定義より, $A^{-2} = (A^{-1})^2 = \frac{1}{121} \begin{bmatrix} 46 & -21 \\ -49 & 25 \end{bmatrix}$. $(A^2)^{-1}$ でも求められる.
4. ${}^t A = \begin{bmatrix} 2 & 7 \\ 3 & 5 \end{bmatrix}$.

講評 3 の A^{-2} はあまり使ってなかったけど, [高橋線形 p.30](#) で定義されてます. A^{-1} のさらに逆行列を求めようとする人がいましたが, それは A^{-2} でなく, 計算するまでもなく $(A^{-1})^{-1} = A$. これは $AA^{-1} = E$ から読み取れるわけですが, 正則行列に対してもふつうの数に対する指数法則 $(A^n)^m = A^{nm}$, $A^n A^m = A^{n+m}$ が成り立ってるわけですね. ただ, $(AB)^n = A^n B^n$ は成立しないのでご注意.

$(A^{-1})^2$ と正しく分かった人の中にも, 問1で積 AB が計算できるのに, 積 $A^{-1}A^{-1}$ は自分ルールで計算しちゃう人がいるのはなぜ?

3

A の固有値 $\lambda_1 = 9$ の固有ベクトル $\mathbf{x}_1 = \begin{bmatrix} 2 \\ 3 \end{bmatrix}$ は長さ $|\mathbf{x}_1| = \sqrt{13}$. \mathbf{x}_1 と平行な単位ベクトル (の一例) は $\mathbf{x}'_1 = \frac{1}{\sqrt{13}} \begin{bmatrix} 2 \\ 3 \end{bmatrix}$.

A の固有値 $\lambda_1 = -4$ の固有ベクトル $\mathbf{x}_2 = \begin{bmatrix} 3 \\ -2 \end{bmatrix}$ は長さ $|\mathbf{x}_2| = \sqrt{13}$. \mathbf{x}_2 と平行な単位ベクトル (の一例) は $\mathbf{x}'_2 = \frac{1}{\sqrt{13}} \begin{bmatrix} 3 \\ -2 \end{bmatrix}$.

よって, $\Lambda = \begin{bmatrix} 9 & 0 \\ 0 & -4 \end{bmatrix}$, $P = [\mathbf{x}'_1 \quad \mathbf{x}'_2] = \frac{1}{\sqrt{13}} \begin{bmatrix} 2 & 3 \\ 3 & -2 \end{bmatrix}$. 実際, ${}^t P = P^{-1}$ となっていることがわかる.

²Copyright © 2019 Saburo HIGUCHI. All rights reserved.

講評 テスト 1a 問題 7 そのまま (や問題 4) です. 実対称行列/直交行列 ってところが問 5 と違います.

4

1. $\begin{bmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{bmatrix} \begin{bmatrix} a \\ b \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} a \cos \theta - b \sin \theta \\ a \sin \theta + b \cos \theta \end{bmatrix}.$
2. $\begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} = A^{-1} \begin{bmatrix} -20 \\ 10 \end{bmatrix} = \frac{1}{10} \begin{bmatrix} 3 & -1 \\ 4 & 2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} -20 \\ 10 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} -7 \\ -6 \end{bmatrix}$
3. $\begin{bmatrix} 0 & -2 \\ 3 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 2 & 1 \\ -4 & 3 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 8 & -6 \\ 6 & 3 \end{bmatrix}.$
4. 左から P^{-1} をかけて, $QR = P^{-1}$. 左から Q^{-1} をかけて $R = Q^{-1}P^{-1}$.

講評 問 3 はテスト 1a 問題 9 の再放送のようなもの. 問 2 で思い出してもらおうという趣旨. だって,

$\begin{bmatrix} 2 & 1 \\ -4 & 3 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} -20 \\ 10 \end{bmatrix}$ を, $\begin{bmatrix} 0 & -2 \\ 3 & 0 \end{bmatrix}$ で写すんですね. 問 1 に正解する人ならどちら側からかけるかわかるはず.

5

1. 固有値 λ は固有方程式 $\det(A - \lambda E) = (2 - \lambda)(4 - \lambda) - 15$ を満たす. よって, $\lambda = 7, -1$.
 $\lambda = 7$ に対応する固有ベクトル \mathbf{x}_1 は, $A\mathbf{x}_1 = 7\mathbf{x}_1$ を解いて, $\mathbf{x}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \end{bmatrix}$.
 $\lambda = -1$ に対応する固有ベクトル \mathbf{x}_2 は, $A\mathbf{x}_2 = -\mathbf{x}_2$ を解いて, $\mathbf{x}_2 = \begin{bmatrix} -5 \\ 3 \end{bmatrix}$.
- 2.

$$\Lambda = \begin{bmatrix} 7 & 0 \\ 0 & -1 \end{bmatrix}, \quad P = \begin{bmatrix} 1 & -5 \\ 1 & 3 \end{bmatrix}.$$